



2025年3月14日

各位

会社名 株式会社中村超硬  
代表者名 代表取締役社長 井上 誠  
(コード: 6166 東証グロース市場)  
問合せ先 取締役管理本部長 田植 啓之  
(TEL. 072-274-0007)

## 2025年3月期 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、2024年5月13日に開示いたしました2025年3月期の業績予想について、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### I. 業績予想の修正について

##### 1. 2025年3月期連結業績予想数値の修正(2024年4月1日~2025年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	3,300	110	80	20	1.81
今回修正予想 (B)	2,635	5	△22	△30	△2.72
増減額 (B - A)	△665	△105	△102	△50	
増減率 (%)	△20.2	△97.3	-	-	
(ご参考) 前期実績 (2024年3月期)	2,413	△532	△553	144	13.08

##### 2. 修正の理由

売上高につきましては、特殊精密機器事業において主力顧客である工作機械・電子部品業界が低調に推移したことや、化学繊維用紡糸ノズル事業において不織布関連ノズルの受注・販売が低調に推移したことなどにより計画を大きく下回りました。D-Next事業においては、パワー半導体・難削材向けダイヤモンドワイヤの売上は前年から大きく伸ばしたものの、一部顧客において量産立ち上げが計画より遅れたことに加え、第3四半期において半導体需要低迷の影響により、主力顧客へのダイヤモンドワイヤ販売が落ち込んだため、売上が計画を下回ることとなりました。マテリアルサイエンス事業においては、2025年度の量産開始に向けたエンドユーザーでの評価が継続しており、売上高は10百万円に留まる見通しです。

これらの結果、売上高は前回公表した数値を下回り、2,635百万円となる見込みです。また、損益面についても、売上高の減少と原材料価格やエネルギーコストの高止まりにより、前回公表した金額を下回り、営業利益は5百万円、経常損失は22百万円、親会社株主に属する当期純損失は28百万円となる見込みです。

2025年3月期通期連結業績予想における各セグメントの売上高の内訳は以下のとおりです。

	前回発表 予想数値	今回発表 予想数値
特殊精密機器事業	850 百万円	705 百万円
化学繊維用紡糸ノズル事業	2,000 百万円	1,680 百万円
D-N e x t 事業	430 百万円	240 百万円
マテリアルサイエンス事業	20 百万円	10 百万円
計	3,300 百万円	2,635 百万円

① 特殊精密機器事業

特殊精密機器事業については、商社を活用した自動車部品メーカーへの販売拡大や、新素材で製作した実装機用ノズルに代表される既存顧客からの新規アイテムの受注といった販売拡大施策は一定の成果が得られました。しかしながら、下期から回復基調に転ずると予測していた主力顧客である工作機械業界や電子部品業界が依然として低調に推移したことに加え、中国経済停滞の影響により、中国向け実装機の輸出が大きく減少した状況が継続しており、耐磨耗工具関連分野、実装機用ノズル分野ともに受注・販売が回復しておらず、非常に厳しい事業環境が続いております。これらの結果、当期売上高は705百万円を見込んでおります。

② 化学繊維用紡糸ノズル事業

化学繊維用紡糸ノズル事業については、風力発電用ブレード向け炭素繊維用ノズルの受注・販売は前期に引き続いて好調に推移いたしましたが、中国経済停滞の影響により、不織布関連ノズルの販売が低調に推移したことに加え、国内フィルム業界が低調に推移したことにより、新工場で製作する大型フィルム用ダイの販売が計画を大きく下回りました。これらの結果、当期売上高は1,680百万円を見込んでおります。

③ D-N e x t 事業

D-N e x t 事業については、パワー半導体・難削材向けダイヤモンドワイヤの販売は顧客開拓が進展し、販売量も順調に増加を続けてまいりましたが、第3四半期において車載用を中心とした半導体需要低迷の影響を受け、主力顧客であるウエハメーカーの稼働率が低下したためダイヤモンドワイヤの販売が一時的に落ち込んだことや、一部顧客において量産採用のための評価が長期化したことにより、量産販売開始が計画より遅れた影響等により、受注・売上が計画を下回ることとなりました。これらの結果、当期売上高は240百万円を見込んでおります。

④ マテリアルサイエンス事業

マテリアルサイエンス事業については、化粧品や歯みがき粉向け用途分野において正式採用が決定し、少量ながら製品用ナノサイズゼオライトの出荷を開始しております。しかしながら封止剤向けや触媒向け用途等の量産が見込める用途分野におきましては、エンドユーザーによる評価が継続しており、正式採用には至っておらず、当期売上高は10百万円を見込んでおります。

※上記の業績予想等は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、今後様々な要因により上記予想数値と異なる可能性があります。

※中国の江蘇三超社との国際仲裁については、シンガポール国際仲裁センター（SIAC）による仲裁判断を待っている状態であるため、上記の業績予想等には織り込んでおりません。開示すべき事象が発生した際には速やかにお知らせいたします。

以 上